

令和7年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を上回って達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■令和7年度の重点目標

- ・園内の安全対策の推進
- ・園内・古民家内の展示整備
- ・運営基本方針に基づいた事業運営

項目	令和7年度目標値	令和7年度実績値	令和6年度実績値	令和5年度実績値
総入園者数	138,000人	114,443人	116,258人	115,373人
有料入園者数 (有料率)	55,200人 (40%)	46,533人 (40.6%)	46,097人 (39.7%)	45,281人 (39.2%)
外国人入園者数	13,000人	10,126人	11,840人	9,669人
総入園料収入	23,551,000円	20,618,770円	20,423,270円	19,800,310円
WEBサイトアクセス数 (英語版)	630,000件 (47,000件)	639,486件 (35,793件)	601,975件 (46,181件)	618,193件 (42,348件)
来園学校数	160校	134校	148校	166校
伝統工芸館藍染体験参加者数 (伝統工芸館事業収入)	2,000人 (8,000,000円)	2,208人 (10,676,451円)	2,213人 (11,740,449円)	1,990人 (6,677,001円)

1 伝える博物館

(1) 文化財の保存・調査・研究の推進

令和7年度

現状： 25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の保管状況を改善しながら資料整理を進めるとともに、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1文化財建造物の継続的維持の推進 (運営方針(1)ーアー(ア))	屋根修理等工事(北村家・野原家完成まで・工藤家一部完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時)	北村家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸 屋根修理工事(2年計画2年目) ◎野原家屋根修理工事(2年計画1年目) 小破修繕	北村家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸 屋根修理工事(完成) 野原家屋根修理工事(2年計画1年目完了) 小破修繕(佐々木家差し茅補修、鈴木家土台・土間・たたき補修ほか)	屋根の劣化状況と耐震補強順位の調整	B / B
2資料の収集・保存及び資料保存環境の向上 (運営方針(1)ーイー(イ)(ウ))	旧所有者及び旧所在地の民俗資料、民家に関わる建築関係資料の収集と保存 本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回) 定期的なシロアリ防除、害獣駆除 文化財建造物内の燻煙、清掃 収蔵資料の保存場所の確保	シロアリ防除、害獣駆除 文化財建造物内の燻煙、清掃 ◎民俗資料の収集	シロアリ防除、害獣駆除 文化財建造物内の燻煙、点検、清掃 民俗資料の収集(投網、獅子頭、獅子舞関連資料)	文化財建造物内の展示資料等の清掃・修理 収蔵資料の保存場所の確保 収集方針の策定	B / B
3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表 (運営方針(1)ーイー(ア)(イ)(ウ))	民俗資料の整理推進(山田家) 大岡實博士文庫の資料整理 耐震工事報告書作成 「暮らしと家」調査(報告書2年に1冊刊行) 研究者・研究機関への資料提供	山田家保管資料の整理(段ボールからテンパコへ移し替え) 大岡博士文庫(写真資料)のデジタル化保存 耐震工事報告書編集(作田家) 「暮らしと家」調査(完成) ◎旧所在地(五箇山地区)の聞き取り調査実施 事業評価の実施と活用(実施と公表) 窓口の事例等を明文化した民家園ルールブックの活用 民家園だより(年2回)発行	野原家・北村家保管資料の移動・整理 大岡博士文庫(写真資料)のデジタル化保存へ向けた準備(仕様書作成及び資料突合完了) 耐震工事報告書発注準備(作田家) 「暮らしと家」調査(「片平の竹屋」刊行) 旧所在地(五箇山地区)の聞き取り調査実施 事業評価の実施と公表 窓口の事例等を明文化した民家園ルールブックの活用 民家園だより(年2回)発行(vol.102,vol.103) 実測実習等大学等の特別利用受入(11大学、1自治体) 大岡資料の特別利用受入(7件) 市内古民家の調査(宮前区1件)	各民家収蔵資料の再調査と整理 継続的な資料整理の実施(期間等目標の具体化、進捗管理の実施) 「暮らしと家」調査実施・報告書刊行 大岡資料の継続的な整理と保存活用の推進 収蔵庫の燻蒸実施	B / B

(2) 日本の伝統文化を伝えるための展示・教育普及の充実

現状：文化財建造物を野外展示し、それを補うため本館に展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えや耐震補強等の工事も展示の一環としてとらえ、作業風景を見せる工夫をしている。本館常設展示室では導入として日本の民家建築の基本を展示し、企画展示室では民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催している。学校との連携を深め、小学生の学習プログラムや中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、敷地内も展示として整備を進め、石造物を配置している。展示には解説に英文を併記している他、12カ国語パンフレットや4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人対応にも力を入れている。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1体感、体験を重視した展示・教育普及活動の充実 (運営方針(1)ーウー(ア)(イ))	音声ガイドサービスの継続 園内展示整備(継続的美化、パネルのビジュアル化) 古民家解説の充実(古民家めぐり年24回、子供向けの定例) 体感を重視したさわれる民家解説開催 大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス 民家博物館としての特性を活かした企画展示開催(年2本) 一般の人が手に取りやすい解説図録の刊行(年2冊) 企画展展示解説(会期中月1回)やワークショップの開催 外国人向けの展示への対応 自由参加型・体験型事業の充実 他館への展示協力や資料の貸し出し	音声ガイドサービスの継続(二次元コード、タブレット貸し出し) 古民家の展示点検及び民具の管理(継続)民家解説実施(24回) 子ども向け民家解説実施(2回) ◎さわれる民家解説開催 工事解説パネル更新(井岡) 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービス(船越の舞台等) 園内民俗解説パネルの補修(5点以上) ◎新企画展2本開催(妖怪de古民具展、五箇山で暮らす) 企画展における展示解説(一般向け10回、子供向け2回)、さわれる展示の設置、ワークショップの開催、解説パネルの英訳シート作成(各企画展)、終了後の資料整理 体験講座の実施(竹細工、わら細工、機織り) 当日参加型体験事業(昔遊び、七夕他) 民家内での昔ばなし公演(23回) 伝統芸能公演(人形浄瑠璃) 夜間公開(11月4日間) 炉端の会による火焚き実演及び床上公開 民具製作技術保存会による民具製作実演 年中行事展示(22回) ◎他館への展示協力や資料の貸し出し	音声ガイドサービスの継続(二次元コード、タブレット貸し出し) 古民家の展示点検及び民具の管理(継続)、民家解説実施(18回(暮らし9回、建築9回)) 子ども向け民家解説実施(2回) さわれる民家解説開催 工事解説パネル設置及びチラシ配布(井岡) 工事期間中の古民家内部の動画視聴サービス(野原家) 園内民俗解説パネルの新設及び補修 古民家解説パネルの補修(5点) 新企画展2本開催(妖怪de古民具展、五箇山で暮らす) 企画展における展示解説(一般向け5回、子供向け4回)、さわれる展示の設置、関連講座の開催、解説パネルの英訳作成(各企画展)、スタンブラリーの開催、終了後の資料整理 体験講座の実施(竹細工、わら細工、機織り) 当日参加型体験事業(昔遊び、七夕、お正月遊び他) 民家内での昔ばなし公演(23回) 伝統芸能公演(人形浄瑠璃) 夜間公開(11月4日間) 炉端の会による火焚き実演及び床上公開 民具製作技術保存会による民具製作実演 年中行事展示(22回) 他館への展示協力や資料の貸し出し 湘南庭園文化祭への協力 科学館との連携事業実施(七夕、月見) 川崎市役所内museum+205への展示協力	園内展示点検の恒常的な実施 工事の進捗に合わせた解説パネルの更新 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービスの実施 企画展示の広報強化 教育普及事業中の危機管理 旧所在地交流事業の拡充	A / B

2学校教育のニーズに合わせたプログラムの充実 (運営方針(1)ーウー(ウ))	学校団体の体験・見学受入(年間150校) 学習教材の継続的な見直し 職業体験・総合学習等のプログラム受入 学校郷土資料室等整備支援(メンテナンスの実施)	小学校向け体験プログラム・見学の受入(150校) 中学校の職場体験受入 GIGA端末の活用(学習資料、教員向け説明資料の配信) 学校郷土資料室等整備支援(1校) ◎虹ヶ丘小学校における展示替え及び周年行事への協力	小学校向け体験プログラム・見学の受入(体験44校、見学56校) 中学校の職場体験受入(5校) GIGA端末の活用(学習資料、教員向け説明資料の配信) 学校郷土資料室等整備支援相談(2校) 虹ヶ丘小学校における展示替え及び周年行事への協力 出張授業(2校)	学校見学の質の向上 小学校体験プログラムの定期的な見直し 教材用民具のメンテナンス ギガ端末の有効活用	B / B
評定意見	特別利用、資料の貸し出しなど、他機関や大学、研究者による収蔵資料の活用がなされていて評価できる。今後、さらに活用が広がるよう収蔵資料の公開(リストの公開)などに努めるとともに、受け入れのための規則、(要綱、資料貸出基準)などを整備することが重要であろう。また、収蔵資料の充実のためにも、収集方針と収蔵品の管理に関する規定などの更新も必要と考えられる。 収蔵庫燻蒸は2年に一度の割合で実施されているが、近年のスタンダードはIPMであり、薬剤を用いるのは必要な場合に限るようになっている。民家園においても、今後は環境調査を実施し、収蔵環境を管理する方向へシフトすることも検討されたい。 展示、教育普及事業は十分に実施されている。現状の職員体制で年2回の企画展を開催し図録を発行していること、園内の古民家の整備、民家に関連する調査の実施と報告書の刊行までコンスタントに実施できていることは高く評価される。 これまでの調査研究、展覧会などの成果の蓄積を活かして、これからも民家園らしい展示や普及活動を継続されることを期待する。				

2 安全・安心な博物館

(1) 利用者と文化財建造物を守るための対策の推進

現状：消防設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1 耐震対策の推進 (運営方針(2)ーアー(ア))	耐震補強工事(井岡家、江向家) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各 年1回)	◎耐震補強設計(江向家2年計画1年目) 井岡家耐震補強工事(2年計画2年目) 三澤家免震装置点検(1回)	耐震補強設計(江向家2年計画1年目) 井岡家耐震補強工事(2年計画2年目、完成) 三澤家免震装置点検(1回)	屋根の劣化状況と耐震補強順位の調整【再掲】 重機搬入が困難な場所への工事手法の検討	B / B
2 防火体制及び豪雨対策、排水整備の強化等による防災対策の推進 (運営方針(2)ーアー(イ)(ウ))	園路排水整備工事(井岡家、北村家) 総合防災システムの点検と更新 老朽化した電気設備の更新 園路危険個所の定期的な点検 危機管理マニュアルの継続的更新 消防署との連携による防災訓練の実施(年4回) 電気火災予防のための点検 来園者の避難経路の再確認	古民家外構の排水整備工事(井岡家、北村家) 総合防災システムの点検及び修繕・機器更新 ◎山田家・水車小屋他電気設備改修工事(2年 計画1年目) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回) 園路危険個所、落枝・倒木の継続的な点検と対 応(通年) 新規スタッフも含めた危機管理マニュアルの読 み合わせ ボランティアや清掃スタッフも含めた防災訓練実 施(年4回) 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施 (各棟1回) ◎奥門付近の崖地対策工事(設計)	古民家外構の排水整備工事(井岡家、北村家) 総合防災システムの点検及び修繕・機器更新 山田家・水車小屋他電気設備改修工事(2年計 画1年目) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回) 園路危険個所、落枝・倒木の継続的な点検と対 応(通年) 新規スタッフも含めた危機管理マニュアルの読 み合わせ ボランティアや清掃スタッフも含めた防災訓練実 施(年4回) 他館との連携による災害対応訓練への協力 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施 (各棟1回) 奥門付近の崖地対策工事(設計) 災害対応マニュアルの更新	老朽化設備の迅速な交換及び廃番機器対応 作業スケジュールの事前把握	B / B

(2) 野外博物館としての園内整備、植栽・植生管理の推進

現状：民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。来園者向けの施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や土系舗装化など対応を進めている。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1園内整備の推進 (運営方針(2)ーイー(ア)(イ)(ウ))	景観に配慮した園路の整備 休憩スペースの充実とメンテナンス 様々な来園者に配慮したハード面、ソフト面での環境の整備(バリアフリー、外国人対応) 施設の長寿命化に向けた修繕	日陰で座って休める場所の増設、園路の日陰箇所案内 小さな「バリア」の継続的点検と逐次対応 伝統工芸館空調設備の改善 介助が必要な利用者に向けたスロープの設置 園内掲示物の日英併記	夏場のミストの設置 小さな「バリア」の継続的点検と逐次対応 伝統工芸館、原家の空調設備の改善 介助が必要な利用者に向けたスロープの設置 夜間公開時の照明の設置 園内掲示物の日英併記	真夏の猛暑への対応検討 伝統工芸館の空調設備の拡充	B / B
2植栽・植生管理の推進 (運営方針(2)ーウー(ア)(イ)(ウ))	生田緑地植生管理計画に合わせた古民家周囲の植込みや畑の整備 文化財周辺環境の改善(支障木管理等) 観光資源としての花木の植栽	展示環境維持のための除草(継続) 文化財周辺環境の改善(支障木管理等) ボランティア団体と連携した畑の整備 花木の管理	展示環境維持のための除草(継続) 文化財周辺環境の改善(支障木管理、竹垣更新等) ボランティア団体と連携した畑の整備 花木の管理		B / B
評定意見	日本民家園における文化財建築耐震性能向上に関しては、様々な検討を重ねて着実に進展させている。一方で文化財の本質的価値と「補強」による違和感の顕在化については、簡単であっても説明していく必要がある。この点で工事時の掲示や民家園だより特集などの実績は高く評価できる。現在やや停滞している個別報告書編集刊行は、その総合記録としての資料的価値があるので、しっかりと蓄積できるように臨んでほしい。 園内環境整備に関しても、総合防災事業開始から20年以上を経ているので、着実に機器点検に取り組み実績は評価できるが、今後は補修サイクルも視野に入れた長中期計画が必要と感じる。上記のほか、園路整備や排水計画あるいは植栽管理における様々な試行的取り組みも評価できる。 こうした実績を確実に今後活かしていくうえで、文化財建築・管理用施設・設備・環境整備について、事業とその後の経過観察を全体的に把握できる資料整備を望む。そのための体制整備についても検討願いたい。 なお、防災訓練の回数(4回確保)や他館との連携促進については、民家野外博物館として極めて重要な実績なので、今後も維持し発展させてほしい。				

3 人の中心にある博物館

(1)指定管理者やボランティア及び地域等と協働した運営の推進

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、学芸業務と全体の統括業務は川崎市が、管理運営業務と広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれもが資質向上のため各種研修に積極的に参加し、来園者の満足度向上を目標にリピーター確保のための工夫を重ねている。また、民家園の運営を支える炉端の会(ボランティア)・民具製作技術保存会(市民活動団体)と協力者会議を開催し、事業運営の改善を進めている。さらに、指定管理者は伝統工芸館や古民家カフェの運営を行っている他、体験講座・ワークショップや子どもや親子向け行事、当日参加型の行事など様々な自主事業を行っている。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1市と指定管理者との連携による運営 (運営方針3ーアー(ア))	自主事業(自由参加型・体験型事業)の充実(年5回以上) 本藍の継続的使用のためのスタッフの技術向上(研修継続) 藍染の魅力の情報発信 古民家カフェの運営(継続) 民家園の特色を活かした継続的な商品の開発(毎年2点) 工芸館2階を活用した藍染め以外のイベントの実施 ワークショップ等のイベントのインバウンド対応 ◎円滑な移行に向けた次期指定管理者の募集及び選定 指定管理者変更になった場合の円滑な移行 ◎博物館法の一部改正による登録博物館の再登録 研修機会の確保(市職員年1回以上)	指定管理者による各種自主事業の実施(ベーゴマ大会、春・秋・正月の古民家カフェ営業、ワークショップの実施等) 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(5点) ショップ商品表示の日英併記化 伝統工芸館を活用した藍染の魅力発信事業の推進(藍染講座の実施、ミニ展示開催(5回)、展示品の販売(Tシャツ他)、藍染め新商品の開発(5点)、SNSを使用した工芸館からの情報発信等) 工芸館2階を活用した藍染め以外のイベントの実施 体験・講座のスムーズな申込みためのシステム運用 通販事業への積極的な取り組み ワークショップ等のイベントのインバウンド対応 ◎他団体と共に民家園・伝統工芸館を組み込んだ企画構成を検討 ◎登録博物館の再登録に向けた資料作成 庁内外の研修への参加(市職員年1回以上)	指定管理者による各種自主事業の実施(ベーゴマ大会、春・秋・正月の古民家カフェ営業、ワークショップの実施等) 南砺市観光協会と連携した日本酒イベントの開催 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(16点) ショップ商品表示の日英併記の継続 伝統工芸館を活用した藍染の魅力発信事業の推進(藍染講座の実施、ミニ展示開催(5回)、展示品の販売(Tシャツ他)、藍染め新商品の開発(325点)、SNSを使用した工芸館からの情報発信等) 工芸館2階を活用した藍染め以外のイベントの実施(自由研究イベント) 体験・講座のスムーズな申込みためのシステム(Formrun)の導入と運用 通販事業への積極的な取り組み ワークショップ等のイベントのインバウンド対応 伝統工芸館・シティプロモーション推進室・スターバックスジャパンと連携した取り組み 登録博物館の再登録に向けた資料作成 庁内外の研修への参加(市職員年1回以上、博物館職員研修の開催)	窓口対応事例のさらなる蓄積と共有化 インバウンドを意識した価格帯の商品開発 現行商品の精査実施とターゲット層の広いオリジナル商品開発 インバウンド向けイベント、または、インバウンドが参加しやすいイベントづくり オンラインショップによる販売の売り上げの底上げ	A / A
2ボランティア、市民活動団体、生田緑地マネジメント会議との協働 (運営方針3ーアー(イ)(ウ))	伝統芸能公演の実施(年1回) 市民団体との連携による昔話公演(年25回) 炉端の会、民技会との連携の強化 両者との協力者会議による運営改善(年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議との連携(年5回会議出席)	伝統芸能公演の開催(年1回、人形浄瑠璃) 昔話公演(年25回) 協力者会議開催(年1回) 炉端の会との協働(各種行事での協働、チーム活動の活性化支援、外部講師招聘を含む学習会の実施) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議への出席・意見聴取(2回)	伝統芸能公演の開催(年1回、人形浄瑠璃) 昔話公演(年23回)【再掲】 炉端の会との協働(各種行事での協働、チーム活動の活性化支援、外部講師招聘を含む学習会の実施) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議への出席・意見聴取(2回)	コロナ後の炉端の会、民技会との連携のあり方の再検討	B / B

(2)多様な主体との事業連携

現状：七夕や月見など科学館と連携した事業を実施している。施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業として各地の芸能公演や物産展などを行っている。博物館実習や実測実習等により大学との連携を図り、将来的な文化財の維持管理に役立てている。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1生田緑地各施設及び文化財建造物旧所在地との連携 (運営方針3-イ(ア)(イ))	生田緑地他館等との連携事業の充実(年2回) 新たなミュージアム関連事業への協力 旧所在地交流事業の実施(年1回以上)	科学館との連携事業実施(七夕、月見) 旧所在地交流事業の実施(南砺市) ◎旧所在地関連企画展の実施(南砺市)(再掲)	科学館との連携事業実施(七夕、月見)【再掲】 旧所在地交流事業の実施(南砺市)(「越中五箇山がやってくる!」、日本酒イベント【再掲】、 ショップでの物品販売) 旧所在地関連企画展の実施(南砺市)【再掲】		A / B
2大学、建築団体、研究機関との連携 (運営方針3-イ(ウ))	多摩区ゆかりの大学との連携 建築系学部を持つ大学、地域の建設業組合や 伝統建築の技能団体等と連携した実習、実技講習の受入 文化財保存や防災に関する研究協力	博物館実習生の受け入れ 実測実習等大学等の特別利用受入 大岡資料の特別利用受入	博物館実習生の受け入れ(18名) 実測実習等大学等の特別利用受入(11大学、1自治体)【再掲】 大岡資料の特別利用受入(7件)【再掲】 専修大学、明治大学の学生見学受け入れ		B / B

(3)広報の強化

現状： 公式サイトの内容の充実を図っているほか、Xによる配信を開園日は原則、毎日実施している。外国人の来園者が増加していることから、公式サイトの英語版による案内や、羽田空港に外国人向けのリーフレットを用意するなどの広報に取り組んでいる。					
実施目標	中期目標(3年、R9まで)(目標水準)	令和7年度計画(目標水準) (◎はR7新規)	令和7年度実績	課題	部会評価 / 内部評価
1観光拠点化に向けた広報 (運営方針3-ウー(ア))	公式サイトの充実 X・YouTubeを活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・ 神奈川県等と連携した広報 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報 の充実 指定管理者変更になった場合の公式サイトの円 滑な移行 訪日外国人に向けた広報 企画展広報の充実	X・YouTubeの継続的な広報活用 Xフォロワー数の増加 来園者によるSNS等発信の促進 生田緑地各施設・他局・観光協会・神奈川県等 と連携した外国人向けを含めた広報の実施 催事等における様々なメディアを利用した広報 外国語リーフレット再整備に向けた対応	X・YouTubeの継続的な広報活用 Xフォロワー数の増加(4月末 3,743人→3/1 4,100人) 来園者によるSNS等発信の促進 生田緑地各施設・他局・観光協会・神奈川県等 と連携した外国人向けを含めた広報の実施 催事等における様々なメディアを利用した広報 外国語リーフレット再整備(韓国語、ドイツ語完 了)	Youtubeを用いた広報 企画展の広報強化 外国人向け広報の強化、外国語リーフレットの内 容更新 反響の大きい優れた広報先の新規開拓 マスコミへのリリース発信の強化	B / B
2伝統的建築技術や持続可能な 暮らしについての情報発信 (運営方針3-ウー(イ)(ウ))	伝統的建築技術及び持続可能な暮らしについ ての情報発信 保存対策や防災対策の情報発信	公式サイトを活用した情報発信 博物館協会等を利用した情報発信	公式サイトやXを活用した情報発信 博物館協会等を利用した情報発信 川崎市役所内museum+205への展示協力【再 掲】 ラゾーナ川崎プラザでのイベントにおける藍染め の情報発信【再掲】	情報発信の方法の模索	B / B
評定意見	全体的に計画に沿って事業が進められている。 民家園の大きな魅力の一つであるボランティア・市民活動団体との連携・協働は、計画に沿って実施されている。一方、団体間に活動面で調整すべき課題の存在が認められることから、園側の積極的な仲 介や、協力者会議の場を活用するなどして、連携の在り方の再検討も含め、課題の解消に努めること。 多様な主体との事業連携は、よく行われている。特に市と指定管理者との連携による事業は積極的に展開し、計画以上の実績を上げている。また、民家旧所在地の南砺市との交流・連携は、企画展にも結 実しており、評価できる。多様な機関・団体等との連携協力は、博物館法上も求められており、さらなる拡充の検討が望まれる。 広報・情報発信は計画に沿って進められている。リピーターとなり得る地域住民向けの広報のほか、特に外国人観光客は、体験等のコト消費を重視する傾向が指摘されていることから、日本の伝統的建築・ 暮らしを知る目的で来園する国内外の旅行者について把握し、それを想定した広報・情報発信の在り方を検討することが望まれる。園内での商業撮影・コスプレ撮影等に関し、ルールを策定・公表すること で、適切に管理・運用を図ることも検討するとよい。				